



▲大町ひじり学園小学部グラウンド

南側は使用されていない。陸上部が南側を利用して練習ができるように整備ができないか。
教育長 現在のひじり学園各部活動の活動場所については、新校舎建築の際、学校で決定されたものです。
 今回初めてお聞きしましたので、まずは、学校長、体育主任、陸上部顧問、陸上部外部指導者の意見を聴取したいと考えます。

水害対策について

三根 和之

議員 ①令和3年8月の水害により、多くの家屋が水害の被害にあっている。そのため、現在、建設予定の大町町優良田園住宅地においては、水害対策はどのようにされているのか。

②令和元年度と比べ、今年度の水害は浸水範囲が広く、被害が拡大した。そのため、町内に複数のポンプを新増設することが必要と考えるが、これに対して町の考え方を知りたい。また、佐賀県は内水対策プロジェクトチームを設置し、市町や関係機関と連携して対策の実現を目指すこととなっているが、町として復興対策をどのように考え、住民からの要望などを国や県に對してどのように働きかけていくつもりなのか。

以上2点について問う。

企画政策課長

①優良田園住宅建設用地に接する町道港町・馬田線の路面高から、平均40cm高上げて造成を行っています。

次に、開発区域周辺および

下流地域に対する水害対策として、調整池が設置されます。また、建設用地北側 農業用水路の法面は、大雨の時、護岸が崩れる恐れがあることから、法面のコンクリート張り計画されています。

町長

②地形上、六角川上流でオーバーフローした雨は、川下である大町町中島、下湯へ流れ込んでいきます。そして今年の大雨では港町、小通、下大町付近にまで達し、被害が広がりました。

一昨年は約3時間程度で200mmを超え大水害が発生しましたが、今回は長雨で、6日間で1000mmを超える大雨となりました。

そのような状況の中で、内水氾濫が発生しました。これまでも「溜まった雨は外に出す」ことで治水対策の対応をしてきたところですが、近年の気象変動など鑑みますと、大雨時に現況のポンプ能力では、対応が難しく、大町町にとって排水機場の増設、増強は必ず必要な事だと思っており、あらゆる方法を使って要望をしているところです。

また、県で設置された「内

水対策プロジェクト」については、県内全域にわたっての「内水軽減策の検討」など、短期、中長期的な対策を、市町の取り組みも含めて、対応されるものと理解しています。

その事業の中でも、大町関連事業として、下湯排水機場の止水壁やポンプの増強も計画されています。

更に国の事業においても、六角川河道拡幅、分水路築造等、計画されており、全面的に協力をしながら、早期着工、早期完了を目指し、併せて、町内のポンプの増設増強、そして、町内はもとより、六角川流域での関係市町全体での流域治水を進めていきます。



▲優良田園住宅の建設予定地